

ぼたんび 牡丹皮

わが国の牡丹の渡来、聖武天皇の御代（みだい）（724年）に空海が中国から持ち帰ったのが最初といわれています。牡丹は薬用として渡来し、奈良時代には専ら薬用に供されていましたが、花の美しさから、次第に鑑賞用になりました。（室町時代の書『仙伝抄』 1540年）

奈良県初瀬の長谷寺は牡丹で有名ですが、寺の古文書には、元禄13年（1700年）に登廊の両側に牡丹を栽培せりとあります。

明治時代になると、それまで衰退していた牡丹の栽培が再び盛んになりました。フランスで始まった芍薬台に牡丹をつぎきして増やす方法が明治30年頃に日本でも行われはじめ、鑑賞用の牡丹の品種改良が進みました。しかし、根が芍薬である牡丹は薬用には用いることができません。

品質は、大和産（奈良県）と信州産（長野県）が上質であり、中国産の輸入品は、最近でこそやや良品が入ってきているものの、国内産には及びません。

国内での栽培生産・調製加工の技術と、優れた種苗を今後も維持していく必要がありますが、奈良県ではほとんど栽培されていないのが現状です。



ポタン（奈良県薬事研究センター提供）

用途：配糖体（ペオニフロリン等）を含み、漢方処方薬として、止血、鎮痛、などの目的で、駆瘀血、血行障害、婦人科諸疾患の要薬として用いられます。

<主な漢方処方>

桂枝茯苓丸：比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身、（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきび

大黃牡丹皮湯：体力中等度以上で、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの次の諸症：月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔疾

加味逍遙散：体力中等度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの次の諸症：冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症

せんきゅう 川芎

せんきゅう
川芎は、寛永年間（1624～1643年）に長崎へ渡来し、大和（奈良県）において多く作られました。明治時代になって、仙台あるいは山形から北海道に導入され、現在では北海道が主産地になっています。

用途：精油（リグスチリド等）を含み、漢方処方薬

として、補血、強壯、鎮痛、鎮静などの目的

で、冷え症、月経痛症等の処方に配合されます。



センキュウ

<主な漢方処方>

葛根湯加川芎辛夷

比較的体力があるものの次の諸症：鼻づまり、蓄膿症（副鼻腔炎）、慢性鼻炎

芎帰膠艾湯

体力中等度以下で、冷え症で、出血傾向があり胃腸障害のないものの次の諸症：痔出血、貧血、月経異常・月経過多・不正出血、皮下出血

県内の主な薬草園



森野旧薬園

● 森野旧薬園

奈良県宇陀市大宇陀上新 1880

（入園料必要）

TEL 0745-83-0002

<http://www.morino-kuzu.com/kyuyaku/>

大和では、将軍吉宗の時代に、幕府の採薬使植村佐平次政勝による薬草採取旅行が行われました（1729年）。

これに随行した森野藤助は、その後幕府から薬草6種を拝領して、自ら採取した

薬草とともに、（現在の宇陀市にある）自宅の背後にある台地の畑に栽培しました。こうして始まったのが森野旧薬園です。薬園では、唐種を中心とした貴重な薬用植物の栽培が行われました。藤助に始まって、森野家は代々薬草の研究と薬園の整備に努めたため、現在でも、数少ない民間の薬草園として続いています。（この当時、森野旧薬園以外にも、下市において願行寺薬園、堀池薬園などの薬草園がありました。）森野旧薬園は、台地の斜面という自然の地形を生かして、植物の栽培を行っています。

また、薬園の一角には、藤助が隠居してから研究に励んだ書斎兼薬草研究所である、「桃岳庵」があります。森野藤助の自宅は、葛の加工場となっており、冬期には現在も作業が行われています。

● 春日大社神苑萬葉植物園

奈良県奈良市春日野町160（入園料必要）

TEL 0742-22-7788

http://www.kasugataisha.or.jp/h_s_tearoom/manyou-s/

昭和7年に萬葉集にゆかりの深い春日野の地に昭和天皇の御下賜金を頂き、約300種の萬葉植物を植栽する、我国で最も古い萬葉植物園として開園されました。

現在は山野にいのちを芽生えさす草木もなるべく人的な手を加えず、自然のままに生かし、参拝者に安らぎを与える『春日大社神苑 萬葉植物園』として親しまれております。

約3ヘクタール（9,000坪）の園内は、萬葉園・五穀の里・椿園・藤の園に大きく分けられています。萬葉園の中央には、萬葉時代の庭園を思わせる造りの池があり、その池の中央の中ノ島には『臥龍のイチイガシ』と呼ばれる老巨樹（奈良市指定文化財）が幹を地に長く臥せて繁っています。

園内中央部の浮舞台では、5月5日（祝）、11月3日（祝）と春秋2回、奈良時代より絶えることなく、絢爛豪華な王朝の風情も伝承されてきた雅楽・舞楽が「萬葉雅楽会」として奉納されます。園内の南端には、春日大社の社紋が藤の花であることから『藤の園』が造られ、20品種・約200本もの藤の木が植栽されています。



春日大社神苑萬葉植物園（春日大社神苑萬葉植物園提供）

● 萬葉の樂園協議会 （大和シャクヤク花園）

奈良県桜井市穴師595（随時見学可能）

TEL 0744-22-6811（八房建設株式会社内）

<http://www.manyo-rakuen.com/>

萬葉の樂園協議会は、国土交通省と（一財）建築業振興基金が実施する建設企業の連携によるフロンティア事業を利用して、「萬葉の樂園プロジェクト」と銘打ち、奈良県固有の大和シャクヤクの復活を目指して、古道山辺の道に面する場所に、薬草園である「萬葉の樂園」の整備に取り組んでいます。薬草の栽培は、製品として出荷できるまでに長い時間を要しますが、5月中旬には大和シャクヤクが見頃となりますので、県民の皆様には是非お立ち寄りいただきたいと思っております。



●田村薬草園（田村薬品工業株式会社）

奈良県御所市西寺田50（見学申し込み必要）

TEL 0745-66-1521

<http://www.tamura-p.co.jp/yakuso/guide.html>



田村薬品工業株式会社薬草園（田村薬品工業株式会社提供）

古くから、田村薬品工業のある御所は、薬草の産地でした。役行者が修験道の修業をしているとき、今に伝わる名薬「陀羅尼助」を作ったのも、ここから程近い葛城山麓だったと言われています。

薬用植物は、健康を願う人々の永い経験の積み重ねによって築き上げられた生活の知恵というべきもの。田村薬品工業の薬草園にも、その伝統は受け継がれ、今日も薬草の可憐な花が風に揺れ、いつか役に立つ日を待っています。

●奈良県薬事研究センター 薬用植物見本園

奈良県御所市605-10（随時見学可能）

TEL 0745-62-2376

<http://www.pref.nara.jp/3493.htm>

奈良県薬事研究センターは、奈良県御所市に設置された県立の試験研究機関です。

奈良県における薬業の振興を目的として、様々な分析手法を用いた試験や、製剤試作の他、医薬品の微生物に関する試験を行っています。

薬業を通じた県民の保健衛生、社会福祉の向上に寄与することを目的として、良質な医薬品の流通のための医薬品の審査を行っています。

また、薬用植物見本園を設置し、薬用植物をより身近に感じてもらえるように、年に数回の公開も行っています。



奈良県薬事研究センター（奈良県薬事研究センター提供）